

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	令和 6 年 6 月 27日 (木) (午前) 午後) 10時 00分 開会 (午前 (午後) 12時 00分 閉会
開催場所	茨木市役所本館 6 階 第1会議室
議 長	野口 義文 氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)
出 席 者	赤松 正巳氏 (北おおさか信用金庫)、伊津田 崇氏 (中小企業診断士)、大岩 賢悟氏 (市内事業者)、大坪 さやか氏 (市内事業者)、奥山 結衣氏 (市民委員)、五寶 美奈子氏 (市民委員)、辰巳 雪絵氏 (市内事業者)、辻田 素子氏 (龍谷大学 経済学部)、中野 拓二氏 (茨木商工会議所)、野口 義文氏 (立命館大学 研究部・産学官連携戦略本部)、藤井 茂男氏 (市内事業者) (11人)
欠 席 者	なし
事務局職員	足立副市長、下藺産業環境部長、河原商工労政課長、武部商工労政課長代理、上山商工労政課職員、生田商工労政課職員 (6人)
議題(案件)	(1) 趣旨説明 (2) 委員長、副委員長の選出 (3) 会議の公開について (4) 提案公募型補助制度の審査について (報告) (5) 第3期茨木市産業振興アクションプランの進捗状況について (6) 令和6年度以降の取組について (7) 第4期アクションプランの策定について

<p>配付資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・推進委員会名簿 ・第3期 茨木市産業振興アクションプラン 概要版 ・令和5年度産業振興アクションプラン改定関連現況調査 ・（資1）提案公募型補助制度の審査について ・（資2）産業振興アクションプラン取組シート ・（資3）令和6年度事業について ・（資4）第4期プラン策定スケジュール ・（資5）第4期プラン構成（案） ・（参考）茨木市商業団体連合会 おにクル応援グルメ ・（参考）ダムパークいばきたパンフレット ・（参考）令和5年度 オープンファクトリー実施概要
-------------	---

議事の経過

1 開 会

事務局：開会のあいさつ

委員出席状況（11 人中 11 人出席により会議成立）

2 趣旨説明

事務局：（産業振興アクションプラン推進委員会の趣旨・概要を説明）

3 委員長、副委員長の選出

委員長に野口委員、副委員長に伊津田委員を選出

4 会議の公開について

事務局：市の指針に則り、会議は原則公開とする。

会議録は要約したものを公開する。発言者は個人名を記載する。

なお、今回の傍聴希望者はなし。

5 提案公募型補助制度の審査について（報告）

事務局：（資料 1 をもとに説明）

<質疑・意見等>

委員長：提案公募型補助制度も認知度が向上してきており、申請件数も増加傾向だと感じております。

エンジョイ株式会社は、ハンドブックを作るという事で、完成したら推進委員会でもご紹介いただければありがたいと思っております。

産学連携スタートアップ支援事業の申請は、ライフサイエンス企業が多いので、ものづくり企業も是非申請していただきたいと思います。

6 第 3 期茨木市産業振興アクションプランの進捗状況について

事務局：（資料 2 をもとに説明）

<質疑・意見等>

中野委員：この目標値についてですが、5-1-4 のシートの成果指標「産学連携スタートアップ支援事業を活用した事業の実用化数」は累計なので、現在の 4 件から令和 6 年度の目標値が 8 件になるのはわかるのですが、「特定創業支援等による創業実現件数」は、現在の実績値が 110 件に対し来年度の目標値が 197 件というのは何か根拠に基づいた数字なのでしょうか。

事務局：これは創業支援等事業計画に掲げている数字になります。現在の計画に更新した際の実績の 2 割増しの数字としています。

中野委員：計画策定時の実績によって、目標値を設定しているということですね。

7 令和6年度以降の取組について

事務局：（資料3をもとに説明）

＜質疑・意見等＞

委員長：辰巳工業さんは昨年オープンファクトリーでお世話になりましたが、感想などをいただけますか。

辰巳委員：当日はキーホルダーの作成をしたり、1,600℃の金属を金型に入れるところを見ていただきました。参加した子どもたちの歓声に社員やスタッフが感動して、励みにさせていただきました。課題としてはこの事業は継続して取り組むことが重要だと感じました。

委員長：継続というのは1回目に参加した子供たちが2回目3回目と体験を重ねていくという事ですか。

辰巳委員：そうではなく、回数を重ねていくことによって、色んな方々に知っていただき、ものづくりを好きになっていただくということが重要だと思います。

委員長：ありがとうございました。その他は何かありますでしょうか。

奥山委員：バスツアーの行程のところに「停車後にアンケートを記入して解散」と記載がありますが、これは参加者にアンケートを記載いただいたということですか。内容はどのようなものですか。

事務局：参加した方へのアンケートで、「楽しかった」等の好意的な意見が多かった印象です。

大坪委員：（個人的な意見になりますが、）私は子ども料理教室をやっているのですが、毎回230名程集まりニーズは高いです。おにクルを利用して活動を広げていきたいと思っているのですが、おにクルの予約が取れなくて困っています。できれば単発ではなく月1回を継続して予約したいのですが。

事務局：非常に人気があるということはおもしろいことなのですが、ご指摘の通り予約が取りにくいという声も聞いているところです。

伊津田委員：オープンファクトリーについて、特に都市部では地元とのつながりや愛着を感じるきっかけが薄くなりがちなので、地元でこういったものづくりをしているとか、こういう企業があるということを知ってもらいたいので、こういった取組は継続して拡大させていってほしいと思います。

赤松委員：北おおさか信用金庫は今年で 100 周年を迎えまして、おにクルには、1 階のホールとプラネタリウムのネーミングライツに関わっています。プラネタリウムに、北摂地域のお子様を無料招待するイベントでは、茨木市外からも来場され、市外の方に茨木市の魅力を発信できるという点で、いいのではないかと思います。

オープンファクトリーについては摂津市や東大阪市でも実施するようで、各市が取り組んでおります。東大阪市では工場が多いので参加企業が集まりやすいですが、摂津市は 5 社からスタートしたそうです。こちらの取組は継続して実施することが何より重要なので、これからも継続してほしいと思います。

委員 長：先程辰巳委員からもありましたように継続が非常に重要で、産業活性化プロジェクト促進事業で採択された茨木市建設総合協同組合さんの事業でも継続の大切さを話されていました。

8 第 4 期アクションプランの策定について

事務局：（資料 4、5 をもとに説明）

<質疑・意見等>

委員 長：今回は観光施策の推進が新たに計画に加われますので、おにクルやダムパークいばきたという施設が出来てくる中で、皆様のご意見を賜りたいと思います。

中野委員：まず、オープンファクトリーではなく、オープンカンパニーとしていますが、やはり茨木市の場合は製造業以外の企業も対象になるため、オープンカンパニーとする方がいいと思います。

もう 1 点が令和 6 年度の事業で 5-1-4 の施策について、創業者の醸成とフォローアップは大変重要だと思いますので、内容に盛り込む必要があると思います。

個人的には FIC ベースの 1 階スペースは飲食もできるし、物販もできるので、例えば特定創業支援を利用した人は、半額で借りられるようにするなど、創業の機運醸成に活用してみるのはいかがでしょうか。

最後に観光施策の推進について、「コンテンツの発掘」という項目がありますが、こちらは郷土料理も含まれますか。

事務局：郷土料理も茨木市の特徴として PR できるものは取り入れたいと考えております。

委員 長：中野委員のご意見の特に 2 番目のスペースマネジメントはとても重要で、創業支援とうまくジョイントできれば活性化にもつながるのではないのでしょうか。郷土料理はどのようなものを考えられていますか。

中野委員：今はこれといったものはないですが、高槻うどん餃子のようなものができればいいかなと思っています。

大岩委員：第4期プランの構成について、茨木市は大学が多いので産学連携は重要だと考えています。ダムパークいばきたは、新大阪駅から1番近いダムという事になりますし、茨木市の特徴である自然豊かなところ且つ交通利便性が高いところを踏まえつつ、学生にもっと参画してもらえそうな取組を盛り込んでいただきたいと思います。

また、茨木市には、データセンターがたくさんできており、そのような企業と例えば立命館大学映像学部との映像技術を連携させるなど、他のまちにはない人材の新たなスタートアップを進めていただきたいと思います。

委員 長：大学連携や特徴ある取り組みは色々実施されており、例えば私ども学校法人立命館の大学で大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学では高校生副学長が誕生しました。茨木市は北摂7市で1番大学が多く8つあります。大学集積という、この強みや特徴を打ち出すべきだと思います。

藤井委員：おにクルとダムパークいばきたですが、公共施設ですので100万人の来場があっても茨木市の産業の活性化という点では、周辺商業施設への波及が非常に大事だと思うのですが、その辺がうまくいってないように感じます。ダムパークいばきた、おにクルに行って帰るだけではなく周辺施設に人が流れるような具体的な施策が欲しいと思います。

委員 長：こちらも非常に大事な視点で、市の商業振興が具体的な市内事業者の隆盛につながっていくように、もっともっと結節点を高めていってほしいという事ですね。

伊津田委員：産学連携スタートアップ支援事業について、審査委員をやっていてすごく感じるところは、茨木市の場合は申請がバイオ企業に偏っている気がします。それが駄目という訳ではありませんが、もう少し文系の大学やバイオ以外のものづくり関連産業につながるような学科の大学が参画しやすいような仕組みにならないのかなと思っています。また観光についてですが、今まで茨木市は観光を全面に出してこなかったもので、インバウンドを含めダムパークに人がたくさん来られることは、いい事とは思いますが、ルールを守らない旅行者の問題が最近結構取り上げられているので、ルールを守って、遊びに来てもらう仕組みを考えていく必要があると思います。

委員 長：最後の話はオーバーツーリズムにリンクするところですね。また、おっしゃるとおり産業連携スタートアップ支援事業の申請案件は、ほとんどライフサイエンス系で、これは公募要項の書き方や促し方を工夫するなど、検討する方が良いかもしれませんね。

五寶委員：ダムパークいばきたでは、市民参加型のコミュニティを作っていて、大きなイベントだけではなくて、日常的にどのような使い方ができるかということ、皆さんで考えて実践することを目的としています。この前キックオフイベントがあり、コミ

ユニティメンバーとお話した際に、良い施設なのでどんどん活用したいという希望はありますが、アクセスが悪く車でしか行けないので、その点が問題ですねという話や、ダムパークいばきたに来られる方はダムパークいばきたを目的に来られて、そのまま帰ってしまうという話があがりました。彩都はなだ公園という魅力的な公園も近くにあるので、周辺エリアのことも考えていく必要があると思います。おにクルは市街地にあるので、周辺施設を回遊するケースも多いと思っていたのですが、今日のお話ではそうではないということでしたのでその辺りが課題かと思います。また、私は週3回おにクルで勤務しているのですが、東大阪からプラネタリウムを目的に来られた方が15時の部まで空きがなく、それまでどう過ごすか困っておられました。100万人目の来場者も市外の方でしたので、非常に注目されていると思います。おにクルが一杯だった時や、思っていたイベントが無かった時に、それを受け止めるものが周辺にあって欲しいと思います。あと、大学が多いまちというのも特徴だと思うのですが、様々な学生の取組も単発的に見受けられることが多いので、うまく下の代に継承しステップアップしていける仕組みがあればいいのにと思いました。

委員長：この委員会の中で、ダムパークいばきたのキックオフイベントに参加したのは五寶さんくらいではないでしょうか。その生の声で、アクセスが悪いという声があり、これは先程「新大阪駅から一番近いダム」という特徴があったので、その辺と結び付けられればと思いますね。サークルなどは継承性が弱いところもあるので、市役所の方でもメンターのような形で、サポートを実施していくこともできればと思いました。

奥山委員：ダムパークいばきたに行く時に何に困るかという、アクセスです。私の周りは車を持ってない方が多く、「どうやって行く？」という話はよくしています。茨木市の方は大体自転車を利用して移動していますが「ダムパークまでは難しいよね」という話もします。広報誌などで告知もしているので「1回行ってみよう」とは思いますが、2回目3回目行ってみようと思うのかは疑問に思います。実際行ってみて「良かった」と思えば市外の友人などに勧めることもできるので、すごく大事だと思います。バスツアーみたいなものがあれば子どもがいても一緒に行きやすいと思います。また、行く・帰るとなってしまう点については、ランニングツアーをやってみたり、大学生にはカーシェアを推奨したりして集客につなげればいいのかと思います。

特産品のところでは、広報誌にダムカレーがたくさん掲載されており、これはダムパークが開業するからということで、特産品ではないのでしょうか。特産品として、食べ物は着手しやすいので、いいかなと思います。

委員長：将来的に無料の巡回バスみたいなものを考えたりする必要もありますね。

副市長：ダムパークいばきたは当然関心が高まっており、アクセスの問題は我々も認識して

います。バスの運転手の人手不足という課題はありますが、市として支援しながら少しでもバスを増やしたいという事は考えています。

ダムパークいばきたは近いと言えば近いので、サイクリングや山手台方面の路線バスなど、いろいろなアクセス方法があるので、そのあたりをお知らせして自分に合ったアクセスをうまく使っていただくことが大事だと感じています。車以外でも来ていただけるよう頑張りたいと思います。

委員長：大事な市民の声だと思います。スタンプラリーのような取組も考えてもらえたらと思います。

辻田委員：「観光施策の推進」という言葉がすごく気になります。「観光産業を推進」など産業への波及、効果を打ち出さず、行政内部での施策展開を掲げている点に違和感を覚えます。

「とりあえず新しい施設ができたので、それを契機に施策をいくつか打ってみます」と言われても、それが結局産業にどうつながるのかという疑問が出てきます。観光を取組にいれるのであれば、もう少し明確に打ち出すなり、覚悟を持ってやらないと実効性に欠けるのではないのでしょうか。

委員長：観光施策ということで目標設定するのは良いけれども、政策と現場への還元とを見たときに開きがある。それを狭めるために魂を入れて考えくれという裏返しの部分もあるのかなと思います。

下菌部長：取組欄はあくまでも素案ですので、本日頂いたご意見を踏まえて、検討させていただきます。また、総合計画の進捗にも関わってきますので、そちらとも足並みを揃えながら取組んでいきます。

伊津田委員：観光といっても、今は名所旧跡だけではなく、体験コンテンツも重要だと思うので、そういったコンテンツも盛り込んでいければいいのではと思いますが。

副市長：オープンカンパニーにも通じるところがあり、それが盛り上がってくれば十分に可能性はあると思います。

大坪委員：私はスタートアップ企業として、茨木市で頑張っていこうと思っていますが、起業後の支援として、実証実験ができる場があればと思います。堺市の例になるのですが、子ども料理教室を受けたい子どもはたくさんいるし、講師としてやりたい人もたくさんいますが、場所がないという問題があったので、保育園と連携して料理教室をさせていただきました。茨木市でもそういう取組があったらいいなと思います。起業する時よりも、その後のハードルがいくつもあり、それを乗り越えるのが難しくてやめてしまう人も多いので、起業後のサポートを行政がしていただいたら起業家の発展につながると思います。

委員長：起業はできるが、事業を継続していくには谷がある。その谷を埋めるための 1 つの手法として、実証実験の場があればということですね。

9 閉会

事務局：次回の委員会は秋頃を予定しております。

事務局：それでは、以上をもちまして委員会を閉会させていただきます。
ありがとうございました。